第１５４回和光市環境づくり市民会議定例会(全体会議)要旨

日　時　　令和元年１１月１９日（火）午後３時～午後４時半
場　所　　４０４議室
出席者　　７名
　　峯岸正雄、芝勝治、小林新、高橋勝緒、渡辺康三、安井尚彦、松田廣行
傍聴者　　なし
事務局　　環境課　課長　亀井、主幹　加藤、塩野

１　開会

- 峯岸会長から開会のあいさつ

２　議題

⑴　第２次環境基本計画実行計画【改訂版】平成３０年度実施状況に対する評価（案）について

・毎年評価を実施しているが、会員意見を書く時に昨年と同じ内容を書くことが多く、評価の指摘内容を検討してどう施策に反映したのかが分からない。

・（会長）評価案は去年の内容とほとんど変わっていない。具体的に一歩前に明らかに進んでいるという大きなものがない。第５次総合振興計画の会議の中でも、緑地・湧水の保全、地球温暖化対策等、自然環境について、タイミングを見て発言していきたいと考えている。

・主張は十分に絞ってあまり総論的にならなくてもよいと思う。

・（会長）封筒にも書いてある「みんなでつくる快適環境都市わこう」は、今の時代にこそより相応しいと考えて、今後も同じスローガンのままで良いという意味合いで資料の最後のところに書き足しをさせていただいた。

・市民のワークショップの中で、緑地とか湧水に関心のある人もいて、自然環境に興味のある人が多い。そこに参加されるような方が是非市民会議のメンバーに入ってもらいたいので、ＰＲできればしていきたい。湧水がどこにあるか知らない人も多い。是非この会に参加してもらえる人を増やしていきたいと感じた。

・計画等では理想論が語られるが、現実問題としてそれを実行するには大変なお金と労力がいる。そのギャップをどうやって埋めていくかということがこれからの難しい問題になると思う。また、施策で一部でも実行されたところがあると評価を良くしてしまったりする。そういったものの検討の在り方も考える時期に来ていると思っている。

・ギャップを埋めるのも行政の本当の仕事だと思う。数年かかってやっと評価できるかという話になると思うが、検討していますと言って検討の結果が分からないとか、そのギャップをどう埋めるかというのが行政の手腕だと思っている。そこが見えづらい。今でいうならすり合わせの必要があるわけで、現実的に取り組む姿勢が見えてこない気がする。

・案については追加はない。ただ、総合振興基本計画等の長期にわたる予定ものもあると思うが、最近の話題としてこの間の大雨で新河岸川が氾濫しそうになったり、最近は午王山が史跡になったり、そういう変化があったことに対して何か環境課としてのアクションなり計画なりをぜひ盛り込んでいってほしいなと思う。世の中の変化が激しいので、基本計画、実行計画、5 年とか 10 年とかみてるのではなくて、目先のことで新しいことが起こっているので、配慮していってほしい。

・（会長）民間企業では組織の評価から個人の評価まで一連につながっていて毎年担当者は自分の上司と話し合いをして今年はこの課題をこの程度までやりましょうとここまでできればこういう評価ですよとそれが全部集まって係の評価になって、さらにそれが全部集まって部の評価になる、それができたら最後に部長が評価を受けるというそういう仕組みがどこまで機能しているのか。

・市民憲章には緑を増やすと書かれているが、本当に緑を増やす活動をしているのかというと、市内から緑はどんどん減っている。現実問題としてやむを得ない状況はそれぞれあるが、ばたばたと木が切られている。一つずつ一つずつ書いてあることに対して毎年どのように少しずつ積み上げていくか。市民憲章に書いてあるからには緑は減っていくけどもこのような事をやっていますというのがなければいけないと思う。もう一つ、きまりを守り、というのもあるが、どれだけ自転車がルールを破り勝手に走っているかよく分かる。こういったことに真剣に出来る事がある。

・自転車についてはマナーの前に、自転車専用レーンがないのが問題であると思う。レーンがないので歩道を通るしかない。

・自転車レーン以外にも、子供とかが転ばないように段差をなくしてほしいと思う。でこぼこをなくさないとけがしている人がいっぱいいるから。やさしさを持って行政には当たってもらいたいと思っている。

・市内各所で植えてある木の寿命が来てしまっている。切るだけではなく延命措置はできないか。

・生産緑地について、2022 年問題がある。和光市においてもひとつのテーマとして生産緑地が 2022 年問題を乗り越えてちゃんと確保できるかということに疑問を持っている。

・毎年こうやって文書をまとめて和光市の環境基本計画推進調整委員会に意見を出しているわけだが、それを元にいろいろやっていただいているはずだけれども、そのフィードバックが全然ないように思う。

→（事務局）環境基本計画推進調整委員会は、施策として関係している各課の職員が参加している構成である。その中で、市民会議からいただいた評価、今回、昨年と同じようなお話いただいているが、緑地の関係について強く言われていると所管に話は当然委員会の中でしているはずである。緑地の保全だとか樹木の関係というのは、非常に難しいところがある。相続だけではないにしても、市内で開発が結構進んでおり、相続の折に土地を売却するという選択は当然出てくると思う。それに対して行政がどういう風に関われるのかという仕組みづくりがまだできていない、その仕組みづくりの部分では基金などを検討しているという状況にとどまっているのが実態であると考えている。金銭的な部分の関係、予算をどう担保できるのかが正直難しいところで、やはり樹木の伐採は開発の中で簡単に切られてしまうと、そうやって目に見えて減っていく現象というのはみなさんご承知のとおりと思う。では逆に、緑を増やしていきますということとの関係で、例えばこういう所にこういう木を植えましたよというと成長するまで何十年というスパンになってくる。そういった簡単に切るだけでなく何らかの方法とかというのも合わせて検討していく時期であるかと。そこの点について、行政にも不十分な点がまだあるというのが現状と受け止めている。

・伝わりましたというだけで、ではそこがどういうことを検討しているのか、そういうことがまったくこっちへ戻ってこない。なくなってもただ見てるだけなのか。どんどん緑が減っている。それに対してどこでどういう対応をするのかを示すのが評価したなら当然なのではないか。毎年同じような、ただ検討してます、検討しました、予算がなくてできませんでしたでは、それをこの推進調整委員会で環境課の立場というのは、一課なのか、それともこれを主催しているという立場で中心となってこれをまとめているということなのか。

→（事務局）一課という部分もあるし、最終的に取りまとめという役割を担っている。

・毎年こうやってチェックしているが、その時に、委員会で、どこでどういう風に、評価を反映しているのか、検討されているのか。中心である環境課で知って説明してもらえるようにならないと困る。

・実行計画がどれだけ実行されたかということを環境課がしっかり把握できない状況というのはおかしいと思う。「環境基本計画がどれだけ実行されたかということについて環境課は十分に把握し、より改善する方向に進めることを求めます」というようなことを評価に入れざるを得ないのでは。最後のページの一段落の上ぐらいに。

これだけ調査してこういう評価をしているのかは今日出た話では理解しがたいのではないかと思う。

→（事務局）今の話については、推進調整委員会に環境課も委員として入っているので、市民会議から強い意見が出ていることは全体の中で伝えていく。こちら側としても各課の状況について回答できるよう、資料を揃える。団体の方々が地道にやられていることが、広く結びついていければいいという風に感じているので、正直入れるべきかなと思う所はあるが、今回は推進調整委員会のメンバーとして責任を持って発言することで対応する。

（会長）だいぶ時間も過ぎてきたので、たたき台としてはこちらで進めさせていただきたい。

→（事務局）会長と事務局で再確認の意味も含めて再度調整する。

３　閉会

次回　１２月１７日　１０時から　６０３会議室